

「ふるさと支援隊」の大東大学生が 伝統的農法で大豆の脱穀作業

1月15日、熊井地内のは場で大東文化大学 国際関係学部「大豆のアジア学」研究班の学生らが、大豆の脱穀作業を行いました。

この活動は、高野倉の花ノ木営農組合の方々から指導を受け、同大学が7月から実施する平成27年度中山間地域ふるさと事業調査研究業務(中山間「ふるさと支援隊」)の一環。地域在来のやり方で作業を行い、伝統的な農法を体験し農具に触れることが、アジアの農業を理解するためにも有益なことから、この日は、「くるり棒」を使い脱穀を行った後、「唐箕(とうみ)」を使っ

「くるり棒」を使う脱穀作業に、学生は悪戦苦闘



「唐箕(とうみ)」による選別作業を行う学生

て選別をしました。

学生たちは、花ノ木営農組合の方々から手ほどきを受けながら、慣れない道具による作業に励みました。作業が進むと、次第にコツをつかみ、脱穀・選別作業を無事に終えました。

また、学生らが枝豆を育て、収穫し、商品開発の試作などを行った活動は、2月4日に飯能市内で行われた発表会で報告され(写真右)、試作品の枝豆ジュースも多くの来場者にふるまわれました。



小中学校が国際交流の場に 台湾の教職員が教育現場を視察

1月31日、町内にキャンパスのある東京電機大学理工学部の研究交流の一環で、台湾教育関係者(大学学長や小学校校長、教諭、保育園園長、大学院生など)が町内の小中学校を見学しました。

はじめに訪れた鳩山中学校では、数学や技術、体育などさまざまな授業を見学し、「いろいろと役に立ちそうなことをやっている」などと感想を述べていました。次に見学した鳩山小学校では、授業見学や校長との質疑のほか、栄養教諭から説明を受けながら学校給食を味わいました。



中学校の授業を見学する台湾教職員等の皆さん



平井ゆきさん(右)と小峰町長

105歳の長寿を祝い 平井ゆきさんを祝意訪問

1月24日に105歳を迎えた平井ゆきさんを、同日、小峰町長が訪問し、長寿を祝福するとともに、長きにわたる社会貢献に敬意を表す祝状と記念品を贈呈しました。

表彰状を受け取った平井さんは、手を叩いて喜びを表現したり、小峰町長の「おめでとうございます」との呼びかけに対して答えたりと、まだまだお元気な様子でした。現在入居している施設の生活では、歌を歌ったり手遊びを楽しんでいるそうです。今後もお元気で過ごしてください。

「宇宙に近いまち 鳩山」をPR 小惑星“Hatoyamamachi(鳩山町)” 誕生記念シンポジウム

1月23日、町文化会館で「小惑星“Hatoyamamachi(鳩山町)”誕生記念シンポジウム」が開催され、町内外から訪れた多くの方で、定員460席の会場は満席となる盛況ぶりでした。

第一部の命名式典では、小惑星“Hatoyamamachi(鳩山町)”を発見し、命名した天文家の渡辺和郎さんから、小峰孝雄町長に命名認定証が贈られました。その後、渡辺さんから講演をいただき、小惑星とは何かや、今回命名した“Hatoyamamachi”が、今後「小惑星命名辞典」に掲載されることなどの説明がありました。



▶天文家の渡辺和郎さん

宇宙飛行士の山崎直子さん



▶コーディネーターの寺門邦次さん

東京電機大学理工学部教授の島田政信さん

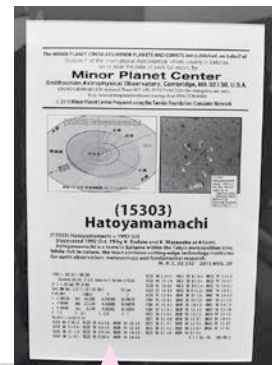


多くの方が来場され満席となりました

続いて、「宇宙からのメッセージ」と題した基調講演では、宇宙飛行士の山崎直子さんから、宇宙での仕事や生活のこと、宇宙飛行士の訓練や試験のことなどをお話いただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、「鳩山町から発信する宇宙の魅力と可能性」をテーマにディスカッションが行われました。

また、ホワイエでは地球観測などに関するパネル展示や宇宙グッズ販売、東京電機大学理工学部の超小型衛星打ち上げプロジェクト、東京都国分寺市のベンシルロケットのブースなどが設けられ、宇宙への関心を高めることのできるイベントとなりました。



命名認定証



山崎さんへ質問する参加者

Voice

来場者アンケートからの声をお届けします。

役場ロビー内に展示中！ぜひご覧ください。

- ★宇宙は広いとわかり、宇宙への興味が広がりました。もっと宇宙のことが知りたいと思いました。(小学生)
- ★あまり専門用語を使っていない説明の仕方で理解しやすかったです。(中学生)
- ★すばらしい講演が聞けて感激です。機械工学を学びながら宇宙工学に携わりたいという意欲が大きくなりました。(大学生)
- ★宇宙と鳩山町の関係について楽しく学ぶことができました。(20代女性)
- ★JAXAのことや宇宙飛行士の試験の話など、山崎さんの生の声が聞けて貴重な経験をさせていただきました。(30代女性)

- ★このシンポジウムをきっかけに、「宇宙に一番近い町」としてアピールするため、たくさんのアイデアを創造して、鳩山町を活性化してほしい。(50代男性)
- ★町民としてこんな施設のある所に住んでいることを誇りに思いました。宇宙が身近なものになりました。(60代女性)
- ★子どもの「心の目」の幅が広がり、もっと知りたいという思いを育てるのに、とても良かったと思います。(70代男性)
- ★改めて鳩山町のすばらしさを再認識しました。(70代女性)

※原稿を一部抜粋・編集してあります。

児童・生徒が障がいへの理解を深め、思いやりの心を育てる 子どもと障がい者のふれあい事業



障がい者が講師となり理解を深める

役場健康福祉課では、11月から2月の期間、町内の小中学校で「子どもと障がい者のふれあい事業」を行いました。この事業は、学校の授業の中で、障がい者の方が講師となり、その体験談やふれあいを通じて、障がいに対する正しい理解と認識を深め、福祉の心を育てるために行われているもので、今宿小学校で11月6日、鳩山中学校で11月25日、鳩山小学校で12月1日に開催しました。

2月16日には、亀井小学校で聴覚障がい者の西澤恭子さん(社団法人 埼玉県聴覚障害者協会 比企聴覚障害者の会)を講師に招き、手話サークル「つくし」の皆さんに協力していただきながら、5年生の児童たちが手話を学びました。児童たちは、西澤さんから障がいのことや経験談を聞いたり、手話によるあいさつなどを教わったりしたほか、あいさつに必要な自分の名前を、手話で表現する練習も行いました。



「身近な言葉や、歌と一緒に手話を学ぶ方が覚えやすい」との考えから、学校で使う単語を学んだり(写真上)、アニメ「となりのトトロ」の曲「さんぽ」に合わせて、全員で手話を交えながら合唱したりしました。(写真左)(亀井小にて)

Voice

「子どもと障がい者のふれあい事業」を終えて、関係者にお話を聞きました。

◆手話サークル「つくし」の皆さん

子どもたちは、手話を覚えようという意識が高くてうれしかったです。覚えるのも早くて驚きました。見た目では分かりにくいですが、音や声が聞こえない人がいること、そして聴覚障がい者とのコミュニケーションには手話を使うことなどを伝えられたと思います。今日の経験が、いつか「手話をまた学ぼう」と思えるきっかけになればうれしいです。

◆亀井小学校の児童たち

初めての手話で、少し難しい部分もあったけど、勉強になりました。歌を歌いながら手話を覚えたのが楽しかったです。



手話サークル「つくし」の皆さん(後列)と、亀井小学校5年生の児童(前列)

全ての個性を尊重し立場を変えた発想を

西澤さんは「手話は、聴覚障がい者と話をする手段。でも、手話ができる人は少ないので、もっと増えてくれれば、外出先などでもほっとする」と語っていました。

児童たちは、この事業を通じて、障がいについて「かわいそう」と思うだけではなく、「もしかして困っているのかな」と考え、声をかけたり手を差し伸べるなど、行動することの大切さも学びました。

手話で“I Love You”!!

ボールを奪い合う選手ら(Aクラス。亀井対吉見SMCの試合にて)



Aクラスで亀井サッカーが3位に 比企郡サッカー少年団鳩山大会

1月31日、梅沢運動場と亀井運動場で「第35回比企郡サッカー少年団鳩山大会」が開催され、比企郡内のチームが日頃の練習の成果を競い合うとともに、試合を通じて交流を深めました。

鳩山町からは、亀井サッカースポーツ少年団の2チームが参加。Bクラス(4年生以下)では惜しくも上位入賞を逃しましたが、Aクラス(6年生以下)では、2試合を勝ち抜き、見事第3位となりました。

※雨天のため1日開催、Cクラス(女子)は別日程での開催となりました。

緊張感あふれる攻防を繰り広げる選手



町内外40人の剣士が腕を競い合う 第25回鳩山町少年剣道大会

1月24日、町民体育館剣道場で鳩山町少年剣道大会が開催され、少年剣士が腕を競い合いました。

大会の結果は次のとおりです。(敬称略)

【小学生低学年の部】第1位：市川 菜月 第2位：武田 蓮華 第3位：小林 洸太・横田 結

【小学生高学年の部】第1位：池田 聖 第2位：宝生 怜大 第3位：伊藤 羽琉花・小川 天太朗

【中学生女子の部】第1位：土井 杏結菜、第2位：横田 萌、第3位：高野 ひかり・宮内 菜月

【中学生男子の部】第1位：北野 翔太郎、第2位：代 光 稀、第3位：藤井 望・満留 彪

3つの中学校吹奏楽部が共演 ふれあい演奏会2016

2月14日、町文化会館ホールで「ふれあい演奏会2016」が開催され、鳩山中学校、滑川町立滑川中学校、嵐山町立玉ノ岡中学校の3校の吹奏楽部が、きれいなハーモニーを響かせました。

演奏会では、「スタジオジブリメドレー」や「演歌メドレー」など、各校が計10曲を披露。さらに、総勢70人を越える3校の生徒で行われた合同演奏では、「銀河鉄道999～宇宙戦艦ヤマトメドレー」などの3曲が迫力ある演奏で披露されると、会場全体から大きな拍手が送られていました。

3校による合同演奏では、ダイナミックな音色を響かせました。



はとっ子給食レシピコンテスト2015 入選作品が学校給食メニューに

町保健センターが、乳幼児期・青少年期の食事の基礎づくりを推進するため実施している、子どもの食育を考えるプロジェクト「はとっ子給食レシピコンテスト2015」。その「給食でこれが食べたい!」部門での最優秀賞作品「かぼちゃのとうにゅうシチュー」が、1月21日に学校給食のメニューで出されました。

受賞者の本郷珠々さん(鳩山小・2年)は、「自分の好きなカボチャと豆乳、ニンジンなどを使い、食べたとしてもおいしかったので応募作品に決めました。メニューになってうれしいです」と話していました。



自分で応募したレシピが元になったメニューを手にする本郷さん